

農協と組合員をつなぐ広報誌

なかしゅんぱ



豊原保育園で親子参観が開催されました

スケートリンクを使って親子仲よく「ジャンボカルタとり」や「親子どうぶつリレー」「おつかいお菓子さがし」などのレクレーションゲームで、冬の寒さを吹き飛ばすほど元気いっぱいに楽しみました。



3月号

2016 Vol. 458



牛の安楽性を高めて 乳量増産を目指す

中春別地区・相澤牧場後継者

相澤 孝太さん(30歳)

今月は中春別地区の相澤牧場の後継者。相澤孝太さんに取材を受けていただきました。

相澤牧場の始まりと歴史

孝太さんの父・敬治さんが四代目。初代の勝之助さんが入植した年は大正15年と相澤牧場は歴史として管内で有数の歴史があります。現在の場所に入植する前に宮城県桃野郡(現在の石巻市)から大正2年に十勝の音更町に入植し、豆の栽培をしていました。しかし、大正15年に十勝から勝之助さんを含む5戸が開拓移民の草分けとして現在の場所に入植しました。当時は大正13年に殖民軌道(未開拓の地の道路の代替えとして鉄道とは異なるもの)が中標津と厚床間に開通したばかりで、中春別には駅と駅職員詰所ほどこしか建物はありませんでした。二代目の一二さんの代となり昭和8年に道からの貸付牛1頭を導入し、相澤牧場の酪農経営の一步となりました。一二さんから孝一さん、そこから敬治さん昭和61年に経



相澤牧場の5代目として日々仕事に励んでいます

営のバトンが渡される前年の60年3月に孝太さんが誕生しました。
孝太さんは小学校から始めた野球は中学3年生まで続け、中学校の頃は四番打者として全道大会まではあと一歩届かなかったものの

酪農家としていきていくきっかけ

チームに貢献しました。別海高校へ進学した際は羽球部に入り、全道大会にも出場した経験を持っています。

孝太さんが就農を意識したのは別海高校酪農科に進学したときと兄弟は男一

始めは日々の仕事に戸惑いもあったそうですが、農協主催の担い手塾「みらい塾」の一期生として一年間学び、仲間づくりをしていく中で不安は徐々に解消し

人だったため漠然と実家の酪農業を継ぐ事を意識していたそう、高校卒業後は農業大学校へ進学しました。在学中は酪農に必要な飼養管理、経営について学び卒業後は実家へ就農しました。



育成牛に配合飼料を朝、晩2回配ります

ていったそうです。

休日の過ごし方

なかなか休む時間が少なく多忙な日々を送っていますが、現在、理事として活動している農協青年部の仲



間グループで情報交換したり、視察研修へ行く事。映画鑑賞やたまに地元に住む同級生達が集まって食事をしながら近況報告をしている時はリラックサした時間を過ごしているそうです。

これからの目標

将来の目標を孝太さんに

1985年3月13日相澤牧場の1男1女の長男として生まれました。別海高校を卒業後、本別の北海道立農業大学校へ進学、2006年に卒業後、家業の相澤牧場5代目として実家に戻り現在に至る。趣味は、映画鑑賞・友人と食事へ出かける事。

尋ねると「今は牛床に空きがない状態なので事故等で頭数は減らないようにする事。個体の乳量増産、環境に気を配りながら健康な牛づくりを目指したい」と将来の目標を教えてくださいました。



青年部で視察に行った際に仲間と

品質の良いサイレージを 収穫するために

合同
講習会

良質生乳生産推進委員会(西川寛稔委員長)、良質粗飼料生産利用対策委員会(伊藤一吉委員長)、および豊原・美原・中春別酪農振興会の共催による合同講習会が、2月22日(月)団地センタートレーニング室にて、参加者約40人のもと行われました。

牧草サイレージの高品質化への取組みと題し、当美原地区のTMRセンター・合同会社グリーンコンプリートサービスの事例を根室農業改良普及センター鬼頭係長に講演いただきました。

地域では、規模拡大に伴う労働時間の増加や労働力不足、粗飼料不足等が課題となっていました。平成18年、これらの課題の解決を図るために、地区の組合員さんが集まりTMRセンター設立に向けての検討をはじめました。設立検討会、設立準備委員会を経て協議を重ね、平成21年3月に構成員7戸で「合同会社グリーンコンプリートサービス」を立ち上げました。

大きな目標は、①粗飼料収穫と飼料調整の一元化による良質粗飼料の確保、②



鬼頭係長による取組み事例の説明

労働力を補う支援体制の整備、③地域の新たな雇用の創出の3つで、これらを達成することで「効率の良い酪農経営をめざす地域支援システムの構築」をめざしています。

主な事業内容は、①牧草の収穫調整(構成員出役、サイレージのダンブ運搬と踏圧は外部委託)②TMRの製造と配送(外部委託)③肥料散布(構成員)④スラリーと堆肥散布(構成員出役と外部委託)⑤牧草の収穫調整作業の受託等です。

草地管理では、畑ごとに面積や更新年、植生、施肥量等のデータを管理。収穫作業前には、構成員と普及センター、JAV職員で草地の植生と生育状況を確認して、刈り取り開始や順番を協議し決定します。牧草の刈り取り高は10cmに設定し堆肥やスラリー、



積極的な質問が出されました

を用いて説明します。

サイレージ踏圧作業は、間口15mと幅が広いバンカーサイロのためタイヤショベル3台で踏圧を行っています。作業のポイントは、①原料草はできる限り薄く広げて踏圧する②壁際は特に丁寧に踏圧する③仕上げはユニポで1時間以上かけて表面を平らに成型して、被覆シートとの密着性を上げる④踏圧・

土砂の混入を防いでいます。刈り取り後は、水分を75%以下に抑えるため、半日程の予乾を行っています。

収穫作業前には作業オペレーターを対象に事前研修会を開き、作業の注意事項、踏圧作業のポイントなどについて新オペレーターにもわかりやすく動画や写真

成型作業が終了したらすぐに被覆シートで覆いタイヤを載せて完成となります。

実際のサイレージ踏圧作業のビデオ映像を見ながら、一見すると問題がないように思える作業の中にもまだまだ改善すべき課題が残されているなどの説明をしていただきました。

「牛の伝染性疾病」
～サルモネラ症とマイコプラズマ性乳房炎～

農場での衛生管理を
徹底しよう

合同
講習会

良質生乳生産推進委員会
では「牛の伝染性疾病」くサル
モネラ症とマイコプラズ
マ性乳房炎」と題して、北
海道ひがし農業共済組合根
室南部事業センター第一家
畜診療課・似内厚之獣医師
を講師に招き、講習会を開

催いたしました。
各酪農家にとつては一番
身近で厄介な伝染病として
取り上げられる、サルモネ
ラ症とマイコプラズマ性乳
房炎。
サルモネラ症の特徴とし
ては発熱(40℃超)や下痢が



似内(にたない)獣医師による説明

多く、6カ月齢
以下の子牛と
分娩後の牛に
かかりやすく、
特に当地域で
は「サルモネラ
04...i...」
が多く発症し
てきている。サ
ルモネラは原
因菌に汚染さ
れたものを経
口摂取するこ
とで感染する
ため、飼槽や
水槽、パドック
や牛床などが
汚れていると
牛の口を通し
て感染してし

まう恐れが
あります。そ
のため、予防
策としては
とにかく人の
出入り口に
は消毒槽を
設置するな
どの衛生管理
環境整備を
徹底するこ
とが重要と
なってくる。
マイコプラ
ズマ性乳房
炎の特徴は
乳房が腫れ
ぼったく、乳
汁は多量の
凝固物となり、細胞数が異
常に高くなります。感染力
が非常に強く複数分房に広
がり、泌乳停止となること
もあります。マイコプラズマ
は定期的に行われるバルク
スクリーニングで発見され
(潜在型)と乳房炎治療中
に発見される(臨床型)に分



多くの参加者から関心の高さが伺えました

かれますが、発生件数はど
ちらも増加傾向にあり、さ
らには過去に発生した農場
の再発例もあります。マイ
コプラズマは搾乳機器や環
境から乳頭口を経て乳腺内
に侵入してきます。また、体
内に潜むマイコプラズマが
血液やリンパ液を介して乳

腺内に移行する場合もあり
ますが、これらには哺乳期
や育成期の肺炎・中耳炎歴
がある牛や乳房炎感染分房
からの移行などが原因とし
て考えられます。

発生傾向としては大規模
牛群での発生が多く、搾乳
頭数が多いほど終息まで長
期化したり、中には乳房炎
の多い時期や牛の抵抗力が
落ちた時に発生しているこ



良質生乳生産推進委員会
西川会長

とも考えられます。
発生時には早急に陽性牛
と健康牛を分けて、菌種に
よつては積極的に淘汰する
ことが拡大防止になり終息
までの長期化も抑えられま
す。
マイコプラズマは伝染性
乳房炎であることを念頭に、
普段から搾乳衛生に注意し、
乳房炎牛の減少に努め、異
常を察知したら獣医師に相
談することで早期発見、拡
大防止につながると思われ
ます。

労働の軽減、
地域農業活性化を目指す

労働力補完に取り組み、 会員の生活にゆとりを！

団地センタートレーニング室にて中春別営農サポート協議会（南澤斎会長）では2月4日（木）、第14回通常総会が盛会に開催されました。開会にあたり南澤会長より挨拶があり、続いて来賓より中春別農業協同組合小



湊組合長と中春別酪農対策協議会西川会長より挨拶をいただきました。議長には美原地区の兼松真武氏が指名され、議事に入りました。議案第1号「平成27年度事業報告及び収支決算について」では、所副会長より事



業報告がされ、「労働力補完のためインターネット求人を中心とした研修生の募集や各地の学校訪問などを行い、研修生との交流や研修を行うことで人材の確保を図って参りました」と説明

がありました。次に議案第2号「平成28年度事業計画（案）及び収支予算（案）」では、「3年前からTPP交渉に参加しておりましたが、残念ながら日本農業界は今後大きな転換期を迎えようとしています。この様に厳しさを増す酪農情勢ですが、当協議会といたしましては会員の過重労働の軽減と地域農業

の活性化を目指して推進してまいります」と新年度事業計画の説明がありました。議案第3号「賦課金の賦課及び徴収方法について」議案第4号「役員改選について」全4議案が提出され、全



議案可決承認されました。第4号議案「役員改選について」では役員選考委員会の久末敏幸委員長より役員選考の結果が報告され、拍手多数の中、新役員が決定し、第14回通常総会が終了しました。

今後とも中春別営農サポート協議会は、会員の皆様のゆとりある生活を目指し、労働力補完に取り組んで参ります。本年度も昨年同様、



会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。平成28年度からの新役員構成は以下のとおりです

- 会長 南澤 齋
- 副会長 高橋 学
- 副会長 小湊 均
- 理事 久保 朋子
- 理事 小林 婦美子
- 理事 小原 登代子
- 監事 川畑 秀晃(新)
- 監事 坂本 正志(新)

ホットミルクの湯気に誘われて

ふゆとぴあ in BETSUKAI2016



別海町農村広場で2月7日(日)に開催された別海町の冬の祭典「ふゆとぴあ」に、J A道東あさひ青年部とJ A中春別青年部2 J A合同で出店しました。

例年、道東あさひ青年部のみで行われていたイベントでしたが、秋に「合同で開催

催しませんか？」という道東あさひ青年部からのお誘いがあり、夏の野付ネイチャーセンターとスワン44ねむろで行っている「夏の牛乳大作戦」に続く2 J A合同イベントとなり合同で協議し取り進められました。

当日は、中標津町、羅臼町の冬のイベントが同日に開催されていたため集客数が心配されて

気温が低いものの好天に恵まれ、多くの来場者で賑わっていました。

なかしゅんミルクロール、バターどら焼き、べつかいの牛乳屋さん、コーヒータ屋さん、飲むヨーグルト屋さんを販売し、「ホットミルクの試飲してま〜す〜」という部員の威勢の良い呼び込みの声に、あたたかさ求めたお客さんが集まり、すかさず「ロールケーキの試食もやってます！」と勧めて手に取ってもらい、子供から大人まで多くの方に試食・試飲していただきました。すべての品がお値打ち価格という事もあり、おかげ様で出店開始から2時間半程ですべての品が完売しました。買い求めて頂いた方には、ミルクランドのファイルやメモ帳のグッズ、箱ティッシュ等をお配りしてPR活動も行いました。

寒い中、参加された皆さん、大変お疲れさまでした。



自分たちのできる範囲での行動をすること

救命手当て講習会・女性部懇談会・J A常勤役員との意見交換会

女性部では救命手当て講習会・女性部懇談会・J A常勤役員との意見交換会を、2月16日(火)開催しました。

救命手当ての基本では、根室北部消防事務組合別海消防署、消防士の星さんと



森田さんにお越しいただき、心臓マッサージ・人工呼吸・AEDの使い方を教えていただきました。倒れた人を発見する場面から始まり、心臓マッサージをしながらAEDを使うタイミングを

わかりやすく教えていただきました。昔はAEDのパッドを貼る位置に毛が生えていたら剃るか、パッドを一枚使い毛を抜かなければいけないんですけど、今は肌にパッドがつかないくらい濃くなければ抜く必要はないとのこと。また、心臓マッサージと人工呼吸はセットで今まで教わってましたが、人工呼吸は少し難しく、無理を行おうよりは誰にでも比較的簡単にできる心臓マッサージを途切れさせない方が蘇生率が上がった例もあるそうです。

質疑応答では「心臓発作で倒れるのと、脳の出血で倒れた場合の処置の違いを教えてください」との質問には、「心臓発作で倒れた場合、呼吸・脈はないことが多く、脳出血の場合脈と呼吸は比較的あります。発作の種類は違いますが、行う処置は基本同じです」と答えていただきました。また、「もしも誰かが倒れた場面に遭遇し

たとき身の回りの安全確認をしつかりし、自分の身を危険にさらすようなことはしないようにして、自分たちのできる範囲で救急隊の到着を待つようにしてください」との言葉をいただき、講習会を終了しました。お昼から夕方にかけて女性部懇談会・J A常勤役員との意見交換会を行い積極的な意見が交わされました。



たとき身の回りの安全確認をしつかりし、自分の身を危険にさらすようなことはしないようにして、自分たちのできる範囲で救急隊の到着を待つようにしてください」との言葉をいただき、講習会を終了しました。お昼から夕方にかけて女性部懇談会・J A常勤役員との意見交換会を行い積極的な意見が交わされました。

色鮮やかな花で春を先取り

女性部趣味の会



趣味の会ではブリザーブドフラワーのアレンジメントを、2月18日(木)を行いました。これまでもフラワーアレンジメントを行ってきた皆さんは、「ここは針金をこんな風に刺すんだよ!」と作りなれてる人が、別の人に教え合っている場面もありました。花と草を飾る位置や高さを微調整しながら飾って行き、皆さんの美的感覚が光る作品ができあがりました。色鮮やかな黄色いバラとオレンジ色のバラがピンク色に良く映え、まだまだ雪深いこの時期でも、少しでも春を感じられるような作品ができあがりました。





みんな揃って和紙絵を作成している時も真剣な中にも和気あいあいとして、おしゃべりも楽しみながら作品づくりを楽しんでいます

日本伝統の和紙を使い、 写真では伝わらない奥深さを表現

和紙絵・香彩会(こうさいかい)代表の青野二枝さんが和紙絵グループを始めたのが平成16年、別海町公民館で「趣味のグループを作りませんか?」と講座が開かれ参加したのをきっかけに和紙絵香彩会がスタートしました。

和紙絵とは楮(こうぞ)など植物の皮を原料にした薄さの異なる主に3種類の和紙、楮紙(こうぞし)、落水紙(らくすいし)、典具帖紙(てんぐちょうし)を描きたい用途によって使い分け貼り付ける作品の事です。ちぎって貼って乾かす作業を何度も繰り返し、途中でイメージと違う場合は一度張ったものを剥がしてはまた貼り直してとサイズが大きい程完成するまでに時間がかかります。作品の大きさによってはおよそ半年かかる大作もあるそうです。

現在の会員は豊原地区在



香彩会代表の青野二枝さんとても気さくに和紙絵の説明していただきました

住の方たちで、月2回中標津町総合文化会館(しるべつ)で活動していて、先生を迎えて日々、花や風景など様々な作品を作っています。一般的には、絵画や写真のように額に入れて飾りますが、短冊やうちわにしたりして生活の中で使えるような作品も作っているそうです。

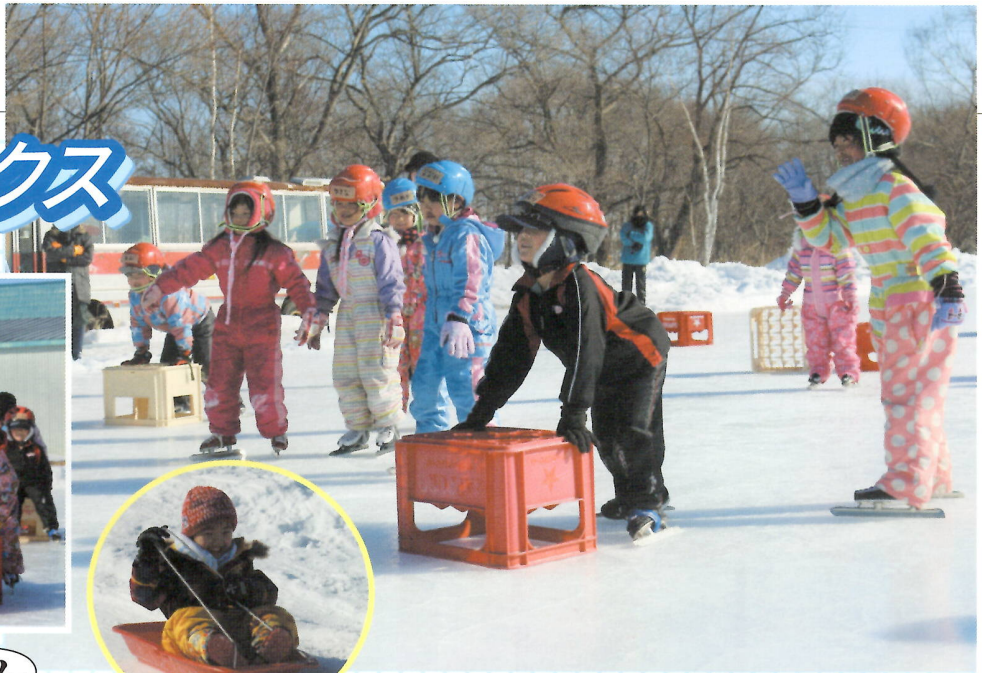
完成した作品は公共の場に展示していて、主な年間のスケジュールとしては1月に別海町図書館、4月別海町野付半島ネイチャーセンター、5〜7月計根別・別海西公民館・別海中央公民館・中標津しるべつとでの移動展、9月にナチュラルカフェ葉風(はーぶ)さん(中標津

町東当幌、中標津市街から計根別市街の間にあります)、11月中標津美術館と年間ぎつしりと展示活動を行っています。

約8年展示を続けている葉風さんで作品を見た方から「奥深くて温かい。どれも作家さんの個性が出ている。和紙に見えない。油絵の様な」といつも好評だそうです。中春別中学校や別海高等学校の学校行事も学校からの依頼があれば展示しています。

和紙絵の魅力を探ねると「和紙絵の良いところは色を重ねて重ねてだす色のハーモニーで、そこから生まれる魅力は奥深く紙の虜になっている。日本の伝統的で古来からある和紙を使って作るのロマンがある。和紙の繊維は一枚一枚個性があって写真では伝わらない趣きがあるので実物を見にきてほしいとやさしい笑顔で教えてくれました。今回取材に応じてくださりありがとうございました。

活動トピックス



お父さん お母さん

■豊原保育園スケート教室

手作りスケート場でスイスイスケート



2月2日(火)豊原保育園では、年中・年長園児を対象に別海町総合スポーツセンターより菊地先生、濱野先生、齋藤先生3人の講師を招きスケート教室が開催されました。今年は雪が少なくスケートリンクが作成できるか心配されましたが、我が子のため夜通しリンク作成に取り組んだお父さん、お

母さんのおかげもあり無事に開催することができました。子供達は前から元気がいっぱい。ヘルメットをかり準備万端で講師のお兄さん、お姉さんが来るのを今か今かと待ちわびていま

した。講師の先生が到着し、みんなで声をそろえて「よろしくお願ひします!!」と元気いっぱい挨拶をし、準備運動後にいざスケートリンクへ。

年長組は昨年にも参加したこともありスイスイと滑る園児が多く、年中組の手をとって仲良く教えながら滑る場面が見られました。講師の先生には、転び方やジャンプ、足の蹴り方などの基礎練習を教えていただいた後、「だるまさんが転んだ」や「鬼ごっこ」などをし、園児達と一緒に楽しみました。転んでもすぐに立ち上がり、「待って、待って」と満面の笑みで講師の先生を追いかけました。

スケートリンクの横では、年少組の園児達がソリを片手に坂を上り「わあ〜い」と大きな声を上げて一気に下っている姿がみられました。来年はお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒にスケートを楽しんでいただければと思います。

当日は寒い中での開催でしたが、参加されたみなさまお疲れさまでした。



寒い冬を吹っ飛ばせ!豊原保育園児

今年もお兄さん、お姉さんに一歩近づきました



■豊原保育園親子参観

いつもの保育園と違い、お父さん、お母さん達と過ごせる日とあり、朝から防寒服を着込んで園児達も大喜びでリンクへと飛び出しました。前日からの積雪で開催できるか心配されましたがなんとか晴れ、お父さんお母さんがリンクの上に積もった雪をほうきやスコップで除雪していました。「早くはじめよー」と待ちきれない様子でしたが、除雪している時間を使い、園児達は、先生と体操して体をほぐし、

いよいよ親子参観がスタートしました。

「まず最初は、親子ジャンボカルタとりです」と先生がアナウンスすると、一斉にお父さん、お母さんの元へ駆け寄り、覚えてたのひらがなとかわいらしい絵が描かれた札がいつばい並べられ、先生が読み上げた札を大人と子供、組に分かれて取りながら楽しみました。

最初は、控え目な子供と積極的にたくさんカルタを獲っていた子供に分かれていましたが残り絵札がだんだん少なくなると、控え目だった子供達も競争心が湧いてきて、先生が読み札を

読み上げると一目散に絵札を目掛けて走り出し、組が違い参加できない子たちが回りで「そこにあるよー!」「あー通り過ぎちゃった!」と周囲も白熱したジャンボカルタとりになりました。

次は、「北風いっぱいリレー」が始まりました。買ひ物袋を通し棒の端と端を親子で持つてリレーするもので、スタートすると、長靴でリンクの上の早く走るのには案外難しく、勢いよく走ったお

父さん、お母さん、子供がコーナーで転倒するシーンがあり、最後まで勝敗が分からない戦いになりました。

3つめの種目は「親子どうぶつリレー」、スタート位置でサイコロを振って「アザラシ、しろくま、ペンギン」の3つの絵が出たら、そのどうぶつのマネをして置かれたコーナーまで行つて帰ってくるのですが、兄弟だと親が同じなので偶然、同じ目が出てまたアザラシだよ」と言いながら動物のマネをしていました。

最後の種目は「おつかいお買ひものお菓子さがし」で、決められた5種類のお菓子だけ誘惑に負けないで大きなソリの中から選ぶ競争で、園児達もお菓子がもらえると思いで「これはちがうお菓子かなー?」と先生に聞くと、「それは先生のお菓子だから取らないでね」とやさしく教える姿が印象的でした。すべての種目が終わるとお弁当が用意され、外でたくさん遊んだ子供たちも笑顔でお昼ごはんを楽しみ、今年度最後の親子参観が終了しました。

2月2日から5日の4日間、みらい塾7期生2人は、鳥取県の酪農家の視察研修に行ってきました。

出発する日の早朝、マイナス22℃と寒さが厳しく、飛行機を乗り継ぎ、到着した鳥取は小雨が降っており、3℃程で想像より少し肌寒く感じました。

府県の酪農事情

その晩、案内を依頼した全酪連鳥取県駐在の阿部さ

鳥取は雨が多く土地面積が少ないため、牛を放牧することができないそうです。土壌も良くないため、デントコーンを作るか、オーチャード主体のイタリアンライグラスを作っています。雨が多いため、湿害に強い草作りが大事との事でした。牧草収穫は、各自で行う

中国地方の文化に触れた 貴重な体験ができました

みらい塾 鳥取・島根・広島視察研修

んと食事をしながら、府県の酪農事情などを聞かせていただきました。鳥取県には酪農家で組織した専門農協、大山乳業農業協同組合があります。27年12月末までの生乳出荷戸数139戸で、酪農家から生産した生乳は自工場ですべて処理、販売をする、一貫体制を行っている酪農専門農協です。

より共同で行うか、コントラを利用する形で行っています。鳥取県は大規模酪農家が少なく、繋ぎで60頭前後での酪農家が多いそうです。土地が少ないので自給飼料確保が難しく、飼料は購入という形で、輸入乾牧草を使っています。鳥取県の酪農を取り巻く

情勢は厳しく、酪農戸数や成牛頭数は年々減少しており、生乳生産量も減少しているそうです。現在、大山乳業では、5万6千トンを生産しており、6万トンを目

指しています。鳥取の乳価はキロ105円で、北海道より10円ほど高いです。そして、どこの地域も同じ問題を抱えているのが後継者問題です。後継者がいても、嫁不足

で、大山乳業のキャラクター「カウイー」にちなんで「カウイーの恋物語」という婚活パーティーなど開催し後継者対策を行っています。

橋本牧場を視察

2日目は、朝から鳥取県内にある橋本牧場を視察させていただきました。60頭の牛をフリーストールで飼育しており、和牛も飼っていました。従業員を一人雇い、月に4回のヘルパーを利用して交代で休みを取りながら、息子さんとお母さんで仕事をしています。

牧草地がないため、草は購入し、敷藁にする草もないので紙くずを敷藁に利用していました。乳質の維持にも心がけていて、前搾りをして少しでもブツが出たら、これぐらい大丈夫だろうと思わず、バケツで搾るそうです。今、困っていることは、たい肥処理が課題との事でした。周りは民家なので、尿を撒けず、たい肥や尿を処理している業者がないため、処理は近隣の方から引き取ってくれますが十分

第7期みらい塾生 中村 理美



案内して下さった全酪連の阿部職員

所変われば 酪農のやり方も変わる

ではないそうです。少しでも匂いがするとすぐに苦情が来るので、かなり気を使わなければいけない状況でした。

橋本牧場では、県内初の牧場直営イタリアンジェラ

ートアイス工房を運営しています。

平成19年からオープンしています。我が家の牛乳で何か美味しい物を作りたい。「美味しいね」と喜んでもらいたい。そういう想いからお店を開きました。アイスは12種類の品揃えで、すつきりさわやかな味わいでとても美味しかったです。

息子さんの



アイス工房も営む橋本牧場の親子

考えは、儲けを考えて自分の管理できる経営をしていきたいと話していました。橋本さんの話を聞いて感じたことは、酪農も場所が変わればそれだけのやり方があるということです。その地域の気候や地理的条件の中で試行錯誤しながら頑張っているということでした。

鳥取砂丘でラクダに縁結びの神様 出雲大社へお参り

視察の後、鳥取砂丘へ行き、念願のラクダに乗りました。日本海海岸に広がる広大な海岸砂丘。奥にいる人たちは米粒くらいに見えました。ラクダに乗って砂丘が一望でき、鳥取砂丘で貴重な体験ができました。ラクダの乗り心地は馬と違い横揺れで遠くを見ていないと酔う人もいるそうです。続いて3時間レンタカーで移動し、



広大な鳥取砂丘で念願のラクダ乗り体験

鳥根県の出雲大社へ。結びの神様として知られる出雲大社。境内には良いご縁がありますようにとお参りするところがたくさんあり、全て回ってお参りしてきました。身も心も清めて、素直な気持ちになれる、とても居心地の良い場所です、もう一度訪れたいと思いました。

広島を訪問

3日目は広島へ行き、厳島神社へ。天気も晴れて広島湾に浮かぶ宮島、海上に建つ木造の鳥居と社殿の眺



縁結びの出雲大社神楽殿の前で

めがとても良かったです。たくさんの見どころがあり、宮島の歴史や文化の奥深いところまで触れる事ができました。

次は原爆ドーム。原爆ドームは原子爆弾の惨禍を示すシンボル。そして、単なる戦争遺跡というだけでなく核兵器による破壊の悲惨さの象徴です。原爆ドームは戦争の恐ろしさを無言で伝えていきます。今も世界のどこかで戦争は行われています。小さな争いが戦争へつながります。二度と同じような悲劇が起こらないよう、原爆ドームにはいろいろな伝えきれない思いがたくさん詰まっているのだと思います。

人々の心の中に平和の砦を築かなければならないと、原爆ドームは私たちに伝えているようでした。

今回の視察研修を通じて、酪農の事はもちろんですが、中国地方の歴史、平和への願いなどがたくさん学ぶことができ、とても有意義で充実した視察研修となりました。

表1 経産牛100頭で必要とされる育成牛頭数

経産牛更新率	初産分娩月齢(ヶ月)				
	22	24	26	28	30
20%	40	44	48	51	56
22%	44	48	52	56	61
24%	48	53	57	62	66
26%	52	57	62	67	72
28%	56	62	67	72	77
30%	61	66	72	77	83
32%	65	70	76	82	86
34%	69	75	81	87	94
36%	73	79	86	92	99

1 自家の現状を把握する
表1に、経産牛100頭規模における必要な育成牛頭数を、初産分娩月齢ごとに示しました。更新率が高

よう。

今こそ、後継牛の安定確保を 育成コストを考える

初妊牛の価格が史上希に見る高値で推移しています。このような情勢の中、ますます重要になってくるのが、後継牛の自家生産です。育成にかかるコストや必要頭数を今一度見直し、健康な後継牛の安定的確保を目指しまし

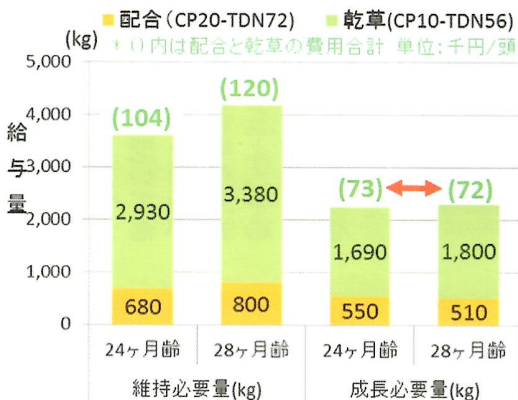


図1 24カ月分娩と28カ月分娩の分娩までに要する飼料費の比較
(配合・乾草の価格はH23期首価格を用いた)

く、初産分娩月齢が遅いほど、多くの育成牛を抱える必要があります。飼料費を24カ月分娩と28カ月分娩の場合で比較してみると、成長必要量(図1:右側)は、分娩月齢による違いはほとんどありません。一方、維持必要量(図1:左側)は、育成期間が長くなる分、増加します(※1)。これに加え、施設費・労賃・ふん尿処理費など、いろいろな経費が余分に必要になってきます。かといって、むやみに早く分娩させ、分娩後の事故や廃用が増えれば結局コストが割高になりかねません。施設、労働力、

2 預託も視野に
預託牧場の利用も選択肢の一つです。預託料金が設定されているので、必要なコストの見通しがつきやすく、施設や労働力は不要になります。しかし、ただ預ければ良いという訳ではありません。預託牧場における課題について、普及センターで調査しました(※2)。その結果、畜主農場の規模拡大などを背景に収容頭数が増加し、返却された育成牛の発育に畜主が不満を感じている事例があることがわかりました。ある預託牧場で実施した体尺測定の結果(図

発育の善し悪し、事故率、個体販売頭数などから総合的に判断し、自家に合った育成方法を検討しましょう(図2)。

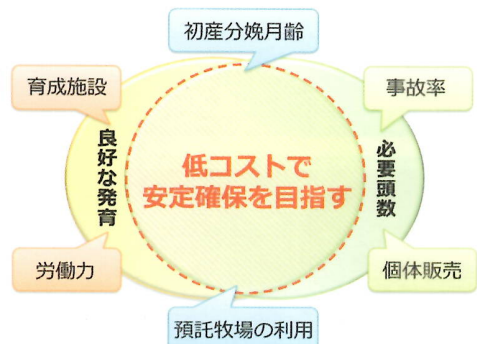


図2 自家に合った戦略的な育成方法を考えよう

健康で即戦力になる後継牛の確保が、経営の安定につながります。そのために、どのような戦略をとるべきか、今一度考えてみてはいかがでしょうか？

要件も調査から見えてきました。

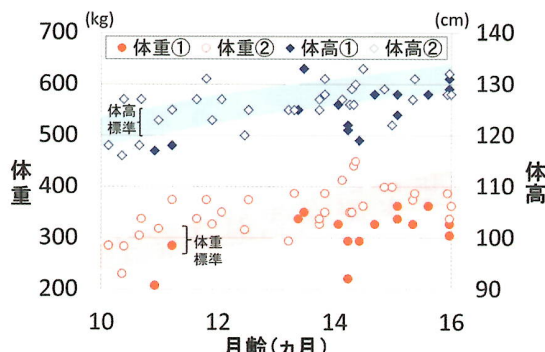


図3 畜主①(●◆)と②(○◇)の預託牛の体高と体重
※1 H24酪農セミナー「乳牛のは育・育成技術再考!!」講演内容集(北根室地区農業改良協議会出版)より作成
※2 H26度調査研究「は育・預託育成システムの課題整理」

3)からは、畜主ごとに発育の差がみられました。預ける前の飼養管理も、発育の善し悪しに深く関与していると言えます。より良い発育を目指すには、預託前の管理、例えば子牛への十分量の初乳の給与、親牛の乾乳から分娩までの管理(十分な乾物摂取量や安楽性の確保など)の徹底が不可欠です。また、預託先とコミュニケーションを図り、信頼関係を構築することの重



●【経営科・専攻科】

海外研修報告会&就農激励会を実施

海外研修を終えた農業特別専攻科2年目学生と酪農経営科酪農経営コース3年生の合同報告会が1月26日(火)に、本校農業会計室にて開催されました。本年度は酪農経営科3年生(井上季音)がカナダの酪農視察研修に、農業特別専攻科2年目学生(青野大地、島崎和成、片野登紀子)がニュージーランドにて67日間の酪農研修を行っており、それぞれ研修の概要や成果を発表しました。

報告会は別海町酪農後継者を育てる会の役員をはじめ多数の来賓を迎え、研修に参加した生徒・学生がそれぞれ視察研修先での写真を用いて研修報告を堂々と発表しました。

カナダの酪農視察に参加した生徒からは先進的な牛舎の構造や牛を大切にするカナダの酪農家の姿、そして世界最高峰との呼び声高い乳牛ショーや、価格に驚いたセールの様子などが動画も交えて報告されました。

ニュージーランド北島オハクネの酪農家で研修した3名は、放牧の特徴やシェアミルク制度などについて感想を交えながら成果を報告しました。



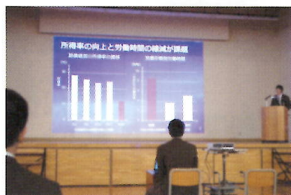
会食の様様

報告会終了後には、酪農後継者として本年度卒業を予定している酪農経営科生徒2人と農業特別専攻科学生5人と来賓が一堂に会して、就農激励会が行われました。参加生徒・学生は、これからの抱負を交えてそれぞれ挨拶し、来賓のみなさまから激励の言葉を沢山いただきました。

(報告の概要につきましてはバックナンバーをご参照ください)

●【経営科】活動内容を報告

1月27日(水)本校体育館で農業クラブの東北北海道実績発表大会に出場した4発表と海外研修のダイジェスト版の5発表を、全校生徒の前で発表しました。この取り組みは、酪農経営科で活動している内容を普通科の生徒にも知ってもらおうと始めたものです。農業に関する実習など学習面で接することが少ない普通科生徒に、日常とは違った酪農経営科の生徒の生き生きした様子の紹介に感心しながら、熱心に5つの発表を聞いてくれました。



発表の様子

●【専攻科】加工実習を実施

2月10日(水)、2月12日(金)別海町乳加工研修施設および農漁村加工体験施設において専攻科1年目学生が参加し、チーズやソーセージ、パン製造の加工実習を実施しました。



パン製造

参加学生は、研修・体験施設の長谷川さん、守川さんの丁寧なご指導のもと、酪農従事者としての目線で、牛乳などを原料とした加工品がどのようにできるのかを、興味深く学んでいました。



チーズ製造

学生からは「チーズは一晩おくと味がなじんでおいしかった。製造の工程が理解できた。」「ソーセージにチーズを練り込ませ、味がよく効いていた。」「フレッシュタイプのチーズ製造にもチャレンジしたい。」といった声が聞かれ、非常に有意義な実習となりました。

●【専攻科】河崎さんからの出前授業

2月17日(水)べつかい郊楽苑にて、根室振興局主催の出前講座が開催され、農業特別専攻科学生11人が参加しました。地域で活躍している女性農業者から農業や農村の持つ魅力や可能性を伝えることを目的としての講義ならびに席を囲んでの昼食会がおこなわれました。



講義の様子

講師として、北海道指導農業士の河崎弘子さんをお迎えし、チーズ工房を立ち上げるまでのことや、チーズを作成する際の留意点をはじめ、牛乳の味がチーズに及ぼす影響、放牧と舎飼いでチーズに及ぼす影響の違い、また、炭水化物とタンパク質のカビの違いやチーズ料理紹介など、心がけなければいけないことから技術的なことまで、幅広くわかりやすいご説明をいただきました。

河崎さんからは、講義の最後に「家族の協力を得て、決してあせらないこと」「あいさつは大きな声で!」といったお言葉をいただき、講義後も年間の乳質の変化にともなうチーズの味への影響や、小さなプラントでの生産量の目安などについての質疑応答がなされ、非常に充実した出前授業となりました。

根釧酪農郷からの出発

北海道別海高等学校農業特別専攻科

2016 学生募集 (2次)

入試日程等(2次) 募集人員15人 修業年限2年間

- ・願書受付
平成28年2月15日(月)から
平成28年3月14日(月)正午まで
- ・合格発表
平成28年3月28日(月)
- ・検査内容
作文および面接
- ・検査日
平成28年3月25日(金)
- ・願書配布
平成28年2月15日(月)から

年度始め納入費

- ・学費や授業料など
45,550円
 - ・講演会・学友会費など
30,450円
 - 合計76,000円
- ※平成27年度入学生初年度



農業特別専攻科の特色

- ・18歳以上の農業を目指す方が、自家や実習先、勤務先で就労・実習をおこないながら学ぶ2年制の課程です。
- ・牧草の収穫時期には家で実践を、春・秋・冬には学校に通学して理論を学びます。

別海町法人従業員
H26年度卒 大阪府出身
佐野 史生さん

昨年まで、農業法人に勤務しながら、農業特別専攻科で学びました。将来の新規参入の夢に向かって頑張ります。



- ・海外酪農研修が履修できます(希望者)
- ・青年就農給付金(準備型)制度対象校です。

実習先農家条件(例)

- ・3食あり、家賃なし、交通費なし、実習代(3~4万円程度)支給。
- ・親方家族と生活をシェアするか、実習生用の間借りなど、ご相談に応じます。
- 働きながらの通学
- ・正規従業員として法人や農場で働きながら通学可能。



お問い合わせ・願書請求は下記まで

〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町70-1
URL.<http://bekkai.hokkaido-c.ed.jp>
TEL 0153-75-2053 FAX 0153-75-2263
E-mail bekkai-Z4@hokkaido-c.ed.jp

Continuing Education Course in Dairi SINCE1972

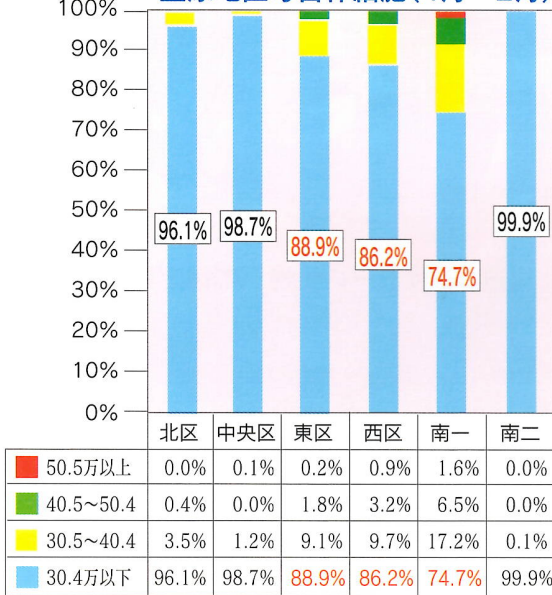


生乳汚染事故を無くそう！

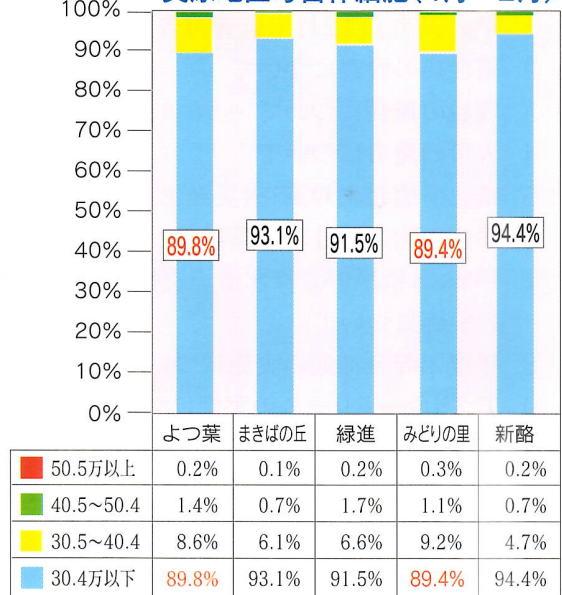
- **抗生物質混入事故**…………… JA中春別発生件数 **3件** 管内合計では**9件**です。
- **生菌による汚染事故**…………… JA中春別発生件数 **0件** 管内合計では**0件**です。
- **異物混入(小動物)、加水、血乳**による汚染事故… JA中春別発生件数 **0件** 管内合計では**4件**です。
- **異臭、異常風味による汚染事故**…………… JA中春別発生件数 **0件** 管内合計では**0件**です。

農場内外の衛生管理は行っていますか？
搾乳衛生はもとより畜舎出入り口、生乳処理室等
行き届いた整理整頓と消毒槽等の設置で伝染性
のある原因菌の進入や広がりを防ぎましょう。

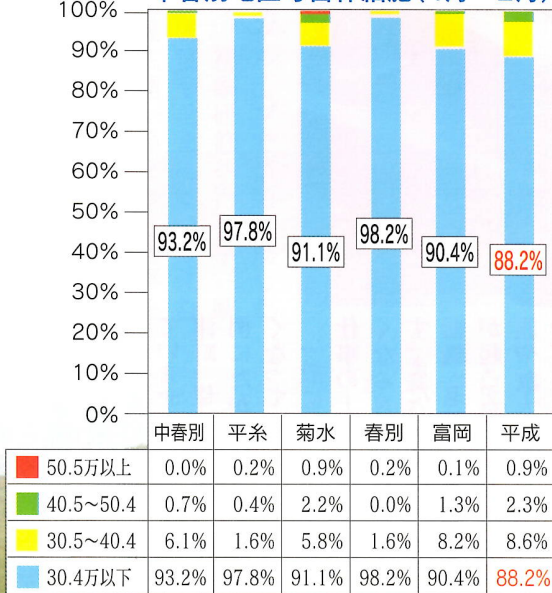
豊原地区毎日々体細胞(4月～2月)



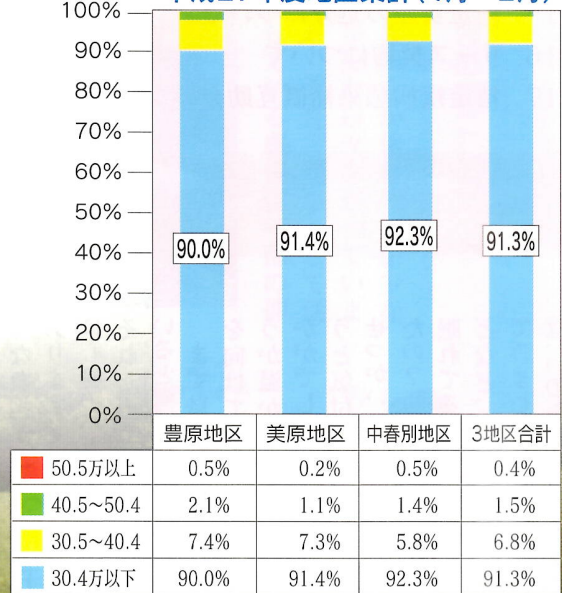
美原地区毎日々体細胞(4月～2月)



中春別地区毎日々体細胞(4月～2月)



平成27年度地区集計(4月～2月)



第12回 理事会の動き

平成28年2月24日(水)

議案

1. 平成28年度理事報酬額の諮問(案)について
2. 平成28営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
3. 平成28年度アグリシードリース事業に伴う資金の貸付について
4. 労働力補完事業に係る協定書(案)の締結について
5. 畜産クラスター計画の変更について
6. 共和育成牧場法人化に伴う事業移管並びに生乳生産・酪農研修事業の実施について

報告事項

1. 平成27年度12月末監査報告について
2. 組合員の脱退について
3. 職員の退職について
4. 人事の発令について
5. 緊急事態発生対策・火災発生対策機構図の変更について
6. 平成27年度1月末決算見通しについて
7. 平成28年JAバンク北海道春期特別推進運動「北海道コンサドーレ札幌 応援定期貯金キャンペーン」の実施について
8. 年度末貯金推進の実施について
9. アグリシードリースの実施について
10. 平成27年度自己査定12月末仮査定結果について
11. 平成27年度決算棚卸実査について
12. 平成27年度1月末営農生産関連実績について
13. 平成28営農年度信用限度について
14. 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(1/2補助付きリース)の需要額調査について
15. 固定資産の処分について
16. リース契約について
17. 特定疾病感染補償互助会の支払いについて

保健センターからお知らせ

3月は 自殺対策強化月間

日本全国の統計では、例年3月に最も自殺者が多いため、内閣府は3月を自殺対策強化月間と定めています。中標津保健所管内(中標津町、標津町、羅臼町、別海町)も、例にたがわず3月の自殺が最も多くなっています。

一般に、3月は年度末であり、お仕事の上では最もストレスが大きくなる月であると考えられています。また、3月は、卒業・進学・転職・退職・退職など生活に大きな変化が起こる時期で、さらに、親しい家族や友人とのお別れによる喪失感や、4月から始まる新しい生活に対する不安など、気持ちの上でも大きな負担がかかりやすい時期でもあります。そのようなことから3月に心身のバランスを崩す方が多く、それが自殺の多さにもつながっていると考えられています。

まず自分の身近な人の様子に目を向けて、普段と変わりないかどうか温かい目で観察してみたいかがでしょうか。様子がいつもと違うと気付いたら、ほんの少しの「おせっかい」をしてください。「どうしたの?」「疲れているみたいだけど、眠れてる?」「ご飯は食べた?」などなど、あたたかい言葉かけをしてみましょう。あたたかい言葉かけは、いのちに必要な栄養素です!

金融課待合室で写真展を開催しています

当JA金融課待合室において「写友北風」メンバー7人のうち当農協組合員さんの南澤三郎さん、松井繁男さん、兼松幸裕さん3人の写真を展示し、訪れる人たちの目を楽しませています。

「写友北風」の皆さんは、別海中央公民館や中標

津空港など各地で写真展を開催するなどご活躍をされています。ひと月に1回程のペースで写真を取りかえて展示しています。農協にお立ち寄りの際はぜひご覧になってください。



左から兼松幸裕さん「白鳥」、松井繁男さん「丹頂鶴」、南澤三郎さん「オオワシ」3氏の躍動感溢れる作品です

1月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

1月分乳代支払単価

		単価	算出基礎	支乳	前	年	差	項目	単価(円)/(kg)%	
乳脂肪分		895.807		36.32	34.46	1.86		乳脂肪分①	36円32銭	
無脂乳固形分		566.642		49.94	47.90	2.04		無脂乳固形分②	49円94銭	
補給金		5.3690		5.37	5.05	0.32		補給金③	5円37銭	
計画チーズ奨励金		1.7149		1.71	1.86	-0.15		チーズ奨励金④	1円71銭	
乳質単価	生菌数	ランク1	2	315,553,914.3kg	3.74	3.71	0.03	脂肪率	全道	4.05%
		ランク2	0	6,544,062.0kg				農協	4.12%	
		ランク3	-3	127,729.9kg				無脂固形分率	全道	8.81%
	体細胞数	ランク1	2	279,937,397.3kg				農協	8.77%	
		ランク2	1	22,720,203.7kg				成分乳価	全道	93円34銭
		ランク3	-2	3,584,405.9kg				①+②+③+④+⑤	農協	91円90銭
合計				97.08	92.98	4.10	乳質乳価⑥	全道	3円74銭	
							農協	3円66銭		
							乳代合計	全道	97円08銭	
							農協	95円56銭		
							⑤+⑥	差異	-1円52銭	

趣味のページで今月は和紙絵香彩会さんに取材させていただきました。和紙絵を今まで見たことがなく、一瞬見ると写真か油絵のような繊細さが見事に和紙のみで表現されていて大変驚きました。グループの皆さんも仲良く和気あいあいと活動していました。これからも多くの作品で見た人を魅了する事と思います。

さて3月に入り日少しずつ長くなり、日中は暖かく、先日は釧路市でも10℃を越えた日もあり、春の訪れを間近に感じます。昨年比べ雪の量は少なく大変ありがたのですが、冬の長い道内はまだ安心できません。この時期、早く暖かい春にならないかと願うばかりですが急に気温が上昇する日は屋根の落雪に注意しましょう。

春になったら玄関先の庭にどんな花や野菜を植えようか考えて、早く雪が溶けるのを楽しみに思っています。

3月は高校・大学受験シーズンでもあります。受験生を持つご家庭は気がでない日々かと思いますがこの誌面が皆様にお届けできる頃には『桜咲く』ことをお祈りいたします。

編集後記

組合員の**広**場



作品名:「流氷」by 青野一枝

この作品は青野さん自身が知床ウトロで撮影した何枚もの写真を頭のイメージで組み合わせ、1枚の絵にして作製に取りかかったそうです。

作品を作製したのは今年の2月頃で、流氷がとてもきれいだったため題材にしようと考えたそうです。作製期間はおよそ1カ月ほどですが、初心者だと和紙を貼る時の濡れた状態と乾いて完成した時のイメージの差が想像しにくいので、張り直ししたりする時間が倍くらいかかります。

この作品のように、各地へ旅行に行った傍ら綺麗だと思った景色をいろいろと写真に撮りためては和紙絵の題材としています。「直接自分が感じた情景の印象を作品に落とし込むほうが良い作品を作れる」と教えていただきました。

組合員さんの撮った写真、ちぎり絵、習字、陶芸などをの作品を募集しています。

ご連絡いただければ取材にお伺いいたしますので営農振興係までお気軽にご連絡ください。